

# 自衛隊の対応

防衛大学校

香月 智

H26.1.23

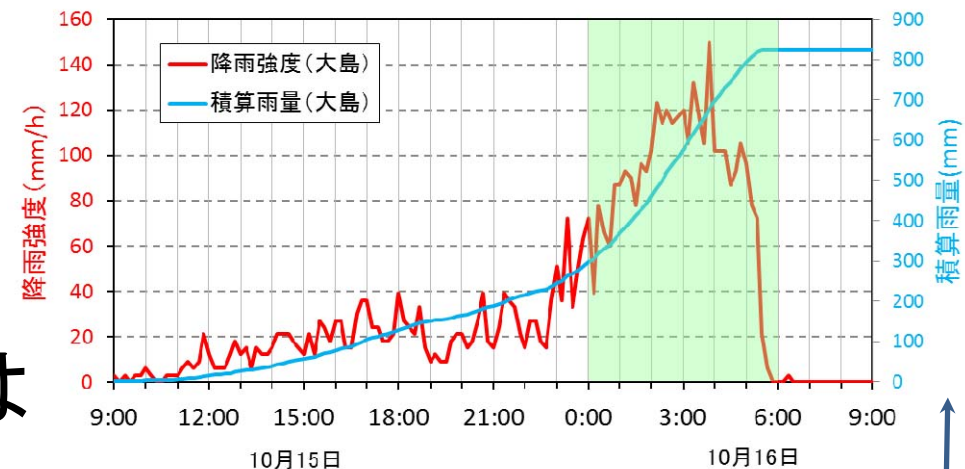
土木学会・地盤工学会・日本応用地質学会・日本地すべり学会  
伊豆大島豪雨災害緊急調査団 報告会

# 特 徴

- 自衛隊発足2回目の  
災害派遣における**統合任務部隊編成**
  - 阪神大震災(1995.1.17): 躊躇
  - 中越地震(2004.6.16): 方針変換
  - 中越沖地震(2007.7.16): 確信、原発災害予兆
  - 岩手・宮城内陸地震(2008.6.14): 大規模(2県)
  - 東北地方太平洋沖地震(2011.3.11):  
**統合任務部隊編成**(複数県【大規模】、原発複合)

# 受理・発動

- 10月16日10時20分、第一師団へ都知事から災害派遣要請受け
- 即時：発令
- 10時40分、大臣指示「離島災害であることを踏まえ、各自衛隊はもとより、関係省庁と協力して救助活動等に全力をあげること」
- 10月20日21時：統合任務部隊発令



16日10時20分

参考：阪神大震災

○発 災：1月17日5時45分

○知事(書面)要請：1月28日

# 初 動

- 11時30分前後：計3機UH-1(ヘリ)偵察
- 11時57分発—12時40分着：FAST-Force10名現地→不明者搜索開始(後続の誘導)
- 13時18分：車両1両+30名到着
- 13時40分：40名着
- 13時52分：患者空輸用UH-60J館山発、15時04分収容、続いて2名を別便で07分収容
- 15時12分：C-1(空自)、大島町長を乗せて美保発
- 17時04分：C-1が警視庁22名、国交省2名(TEC-FORCE)を乗せて入間発

- ✓情報収集：1-2時間(現地)
- ✓初動人員：4時間
- ✓国家機関協同：7時間

# 派遣規模

- 人員：約1,660名
- 車両：約473両
- 艦船：2隻（延べ17隻）
- 航空機：26機  
（12機（陸）、2機（海）、12機（空））
- 参考：
  - 大島町【世帯数約4,800、人口約8,400人】
  - 11月8日 撤収（24日間）

# 輸送支援

- 警察:174名
- 消防:57名
- TEC-FORCE:7名
- その他(医療?)  
11名



防衛省HPより

# WHY? 統合任務部隊 (陸海空自衛隊統合のこと)



- 11月5日入間基地  
患者輸送

防衛省HPより

# WHY? 統合任務部隊



- 海・空の輸送力
- 特に、  
港を要しない  
上陸用舟艇





# WHY? 統合任務部隊 (海自の輸送力: おおすみ)



防衛省HPより

# WHY? 統合任務部隊(活動の最前線) 土工作業(施設科【工兵】職種)



防衛省HPより



# WHY? 統合任 務部隊 (最前線: 行方 不明者搜索)

防衛省HPより

- 機械化できない



# 香月調査時(10.22)の自衛隊

- 台風来襲に備えて、砂防堰堤空積容量確保作業中→官民一体



第一施設団副団長

山内1陸佐(防大土木S57卒)と  
砂防技術情報について情報交換

# まとめ

- 阪神大震災の反省を踏まえて、自衛隊の災害対処能力は、着実に向上している。
- しかし、
  - **48時間内での活動**の質的な向上を図るには、地域に常駐する地方自治体職員からの「**早期の適確な情報提供**」が望まれる。
  - よって、土木技術者（現場急行）の理解も重要である。